

ステップ 1

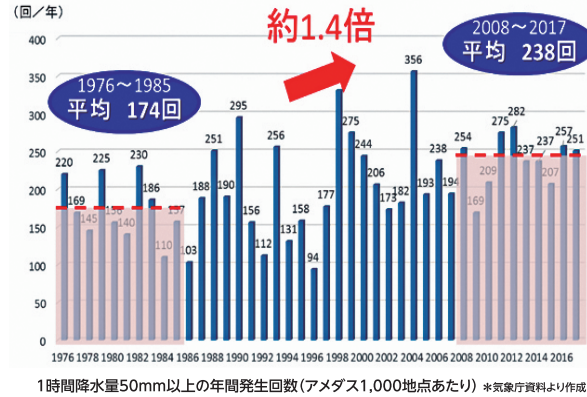
ぼうさい いしき たか  
防災意識を高める

近年の降雨状況

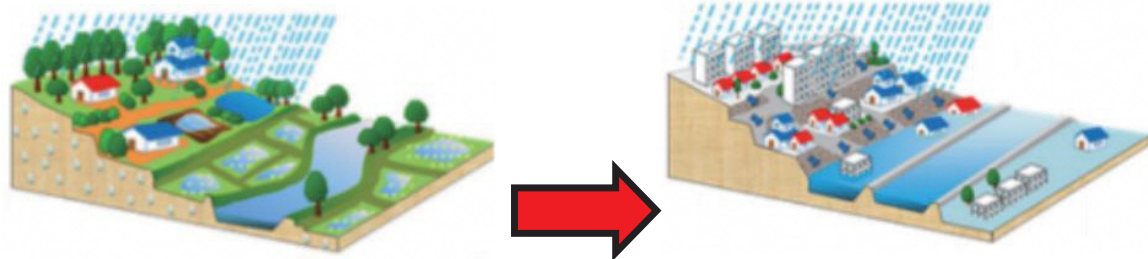
1) 気候変動

近年、いわゆるゲリラ豪雨と呼ばれる局所的な強雨が頻発し、全国各地で浸水被害が多発しており、住民生活・社会経済活動に影響をきたすなど、雨の降り方が「局所化」、「集中化」、「激甚化」する傾向があります。

全国のアメダスより集計した時間雨量50ミリ以上の豪雨の発生回数(1,000地点あたり)は、昭和50年代は平均174回だったものが、平成20年から平成29年には平均238回となり、約30年前の1.4倍に増加しています。



2) 都市化



昔

- 地下に水がしみ込む
- 田畑やため池に水が溜まる

現在

- 田畑が街になった
- 土地が、アスファルトやコンクリートで覆われ水がしみ込まない
- 雨水がいきなり流れ込む

福島市の状況

局所的な強雨とは…

「局所的な強雨」とは、急に強く降り、数十分の短時間に狭い範囲に数十mm程度の雨量をもたらす雨で、「局地的な大雨」や「集中豪雨」とも呼ばれます。単独の積乱雲の発達により起きることから、前線や台風などの大雨にかかわる注意報・警報が発表される気象状態でなくても、発生します。急な強い雨により、下水道や水路、河川等が短時間で増水する等、急激な状況変化があるため注意しなければなりません。なお、大きな被害をもたらした令和元年10月12日の台風19号は局所的な強雨に分類されませんが、一時間あたり39.5mmの雨が降りました。

過去10年の時間雨量TOP5

|   |          |        |
|---|----------|--------|
| 1 | H29.7.28 | 71.0mm |
| 2 | H24.9.3  | 40.5mm |
| 3 | H22.7.3  | 36.5mm |
| 4 | H24.7.6  | 35.0mm |
| 5 | R1.7.24  | 34.0mm |

ステップ 1

ぼうさい いしき たか  
防災意識を高める

4.集中豪雨などによる自然災害について知っておきましょう

自然災害は突然起こり。豪雨などによる水害で、大切な人命や財産に大きな被害をもたらします。自分の住んでいる地域の地形や地質、河川の状況などをしっかり把握し、起こりやすい災害をあらかじめ知っておきましょう。

造成地

地盤が不安定なため、豪雨により地盤がゆるんで崩れる危険性があります。水抜き穴から濁った水が出始めたら注意しましょう。

山間地

豪雨による土砂災害の危険性があります。雨天時の車の運転には、倒木や落石の危険性が高くなるので、特に注意しましょう。

扇状地

山間部への豪雨により土石流が発生すると、山のふもとの扇状地が直撃を受ける場合もあります。

河川の周辺

豪雨や大量の流木等の滞留によって、河川のはん濫が起こると、大きな被害を受ける危険があります。特に以前河川敷だった土地は、注意しましょう。

※1

市街地

短時間に狭い範囲で強い雨が降ると、側溝が雨水をのみきれず、道路などにあふれて思わぬ所が危険になる場合があります。

地下施設

大雨のときは、地下室、地下駐車場、地下通路などの浸水が考えられます。

※1～3は次ページ以降をご覧ください。